

氏名	新村洋未	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	基礎看護学				
学位	修士（保健学）				
学歴	1992年埼玉県立衛生短期大学第一看護学科、1992年埼玉県立衛生短期大学専攻科地域看護学専攻、2003年群馬大学大学院医学系研究科修士課程				
経歴	1992年社会保険埼玉中央病院保健師、1999年埼玉県立大学保健医療福祉学部助手、2005年埼玉県立大学保健医療福祉学部講師、2015年埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授				
所属学会（役職）	日本公衆衛生学会、日本人間工学会、日本看護科学学会、日本看護技術学会、日本看護学教育学会、日本看護研究学会				

【2024年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作(著書及びその他の著作物)						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌 雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	該当なし					
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	該当なし					
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称	研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間		
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）	「学習者中心の教育」を実現する採血技術学習プログラムの開発と評価	研究代表者	2022.4～2026.3		
2	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）	ICTによる在宅酸素療法利用者の個別最適化された患者教育・自己管理システムの構築	研究分担者	2021.4～2025.3		
3	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）	高齢者の外反母趾・浮き趾による転倒予防のためのエビデンスに基づく看護介入の効果	研究分担者	2021.4～2025.3		
3. 教育業績						
(1) 講義						
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	看護研究		2	3年生を対象に、「調査研究（質問紙調査）のデザインと方法」、「量的データの分析手法の実際」について理解しやすいよう具体例を提示しながら講義を行った。		

(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	看護方法Ⅳ（診断治療の援助技術）		16	2年生を対象に、科目責任者と協力しながら、検査や治療に伴う援助技術について根拠に基づいた実施ができるよう技術指導を行った。
2	看護方法Ⅱ（日常生活援助技術A）		16	2年生を対象に、科目責任者と協力しながら、日常生活（活動・食・排泄）の意義と援助の原理原則を理解して行動できるよう技術指導を行った。
3	看護方法Ⅲ（日常生活援助技術B）		16	2年生を対象に、科目責任者と協力しながら、日常生活（清潔）の意義と援助の原理原則を理解して行動できるよう技術指導を行った。
4	看護方法Ⅴ（実践的看護展開）		16	2年生を対象に、科目責任者と協力しながら、前提知識に基づいたフィジカルアセスメント技術の指導や看護過程展開のためのグループワーク指導を行った。
5	看護方法Ⅰ（看護の基本技術）		16	1年生を対象に、科目責任者と協力しながら環境調整技術、観察技術を理解、実践できるよう実技指導を行った。
6	看護過程論	○	16	1年生を対象に、科目責任者として看護過程の目的、展開方法について講義、演習を行った。事例を作成し、個人ワーク、グループワークを通して看護過程に必要な思考の方法が理解できるよう工夫を行った。
7	感染管理	○	8	3年生（履修選択者）を対象に、感染管理の基本的知識、医療機関における感染管理の実践について、ゲストスピーカーによる講義とグループワークを取り入れながら教授した。
8	大学院 看護研究		2	大学院生（博士前期 看護学専修）を対象に、「データの収集と管理」、「量的研究の分析①」の授業を担当した。履修者のプレゼンテーション・討議のあと、解説を加え、主体的に理解ができるよう支援をした。
9	大学院 フィジカルアセスメント		6	大学院生（博士前期 看護学専修 CNSコース）を対象に、「臨床推論演習」に関する部分を担当した。事例を用いて臨床推論を理解できるよう授業展開をし、模擬患者を使用してのフィジカルアセスメント演習を実施した。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	総合実習		2024.7	卒業前の総まとめとなる実習を行う4年次生4名の学内実習を担当した。学生個々の学習計画立案、看護技術指導を行った。
2	ヒューマンケア体験実習	○	2024.9	科目責任者として、1グループ6施設の実習担当教員と主任科目責任者との連絡調整および学習成果の発表会の進行を行った。
3	基礎看護学実習Ⅱ		2024.10	科目責任者として、科目全体の運営を計画、調整した。また、越谷市立病院において受け持ち患者への看護実践の実習を行う2年次生10名の直接的指導および施設・病棟との連絡調整を行った。
4	基礎看護学実習Ⅰ		2025.2	埼玉県立がんセンターにおいて見学実習を行う1年生24名に対し、他教員と協力しながら直接的指導を行った。施設責任者として看護部、各病棟との連絡調整を行った。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2024.4-2024.12	主指導 3名	副指導 1名
2	修士論文	2023.4-2025.3	主指導（指導教員） 1名	副指導（指導補助教員） 1名

(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	埼玉県立大学大学院修士論文審査 審査員	2025.1～2025.2	リハビリテーション学専攻の修士論文の副査を務めた。	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	埼玉県看護協会継続教育一般研修	埼玉県看護協会	「看護過程と看護記録」をテーマに、臨床看護師を対象に講義、演習を行った。	2024.5
2	大学見学会	埼玉県立浦和東高等学校	看護・医療系大学への進学を希望する高校生に対して、本学の実習室見学対応を行った。	2024.5.9
3	高校生系統・分野別説明会	埼玉県立大宮光陵高校	看護学を志望する高校生に対して、看護職の役割、活躍の場、大学での学習内容に関する講義を行った。	2024..12
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期	
1	越谷市建築審査会	審査会委員	2024.4～2026.3	
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容	年月	
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	該当なし			
5. 学内運営				
	項目	内容	期間	
1	全学的委員会及びセンター業務等	研究倫理委員会委員	2024.4～2025.3	
2	全学的委員会及びセンター業務等	大学院入試評価部会部会員	2024.11～2025.3	
3	学科等における委員会等	3年生担任	2024.4～2025.3	
4	学科等における委員会等	国家試験対策担当者会	2024.4～2025.3	
5	学生支援	卒業生の就職継続・再就職支援	2024.4～2025.3	
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名	主催	受賞年月	
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名	特許番号	登録年月	
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	該当なし			